

平成27年度自己評価シート(中間評価)

校番	8	学校名	広島県立三原東高等学校	校長氏名	波多野 徹	◎・定・通	◎・分
----	---	-----	-------------	------	-------	-------	-----

学校経営目標					
	達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
1 確かな授業力と組織的な指導により、生徒の学力向上と進路希望の実現を達成する					
受動的な学びから主体的・能動的な学びへ変革し、生徒の学習意欲及び学力の向上を図る。	知識を活用して課題を解決するために必要なスキル、学習意欲を向上させるために、年2回の公開研究授業日を設定し、全教員が研究授業及び授業検討会に参加する。その際、指導・助言者を招くとともに、近隣の中学校等にも案内する。	B	研究授業は3名の指導主事を招き、アクティブラーニング、ICTを取り入れた授業を行った。	教務	
	学力診断テストの分析結果より、得意・不得意分野の中から1つを焦点化して教科で1年間取組む。知識の活用を通して、自発的な学びへ繋げる。	C	各教科に提案しているが、各学年および全体での把握ができていない。	進路指導	
生徒が高いキャリア意識を持ち、進路目標を実現している。	キャリア教育のストーリーを作成する。各種ガイダンスを充実させ、生徒参加率を上げる。小論文・面接指導を継続的に行い、自己肯定感を向上させて高い目標へチャレンジする生徒を増やす。	A	校内ガイダンスおよび校外のガイダンスも、担任の積極的な指導により3年生はもとより2年生の参加率が上がっている。	進路指導	
	進路希望調査における未定者の割合を減少させる。そのために担任面接の回数を増やし、担任会を通じて情報交換を密に行う。(3学年) 進路希望調査における未定者の割合を減少させる。分析会だけでなく学年会においても情報交換する場面を設定する。(1・2学年)	B	担任会を定期的に週1回設定し、情報交換を行って指導しているが、未定者は5名であった。(3学年) 定期的に担任面接を行い、進路目標を持つ指導を行なった。(1学年) 1年時と比較し未定者の割合が11%から5%に減少。(2学年)	各学年	

【評価結果の分析】

(教 務) 6月に統一研究授業日を設定して実施し、充実した研究授業となった。2回目は11月に計画している。また、「学びの変革」アクションプランの方針に従ったアクティブラーニングの授業についての検討会も順調に議論が進んでいる。

(進路指導) キャリア教育と連動して校内外の各種ガイダンスを増やし、参加する意味を生徒へ説明することによって参加率は上がっている。特に、2年生の意識が高い。学習面に関しては、教科主任会議で確認できていない。

(1学 年) 1学期、2学期の初めにオリエンテーションを行い、授業規律・学校生活の全体指導を行った。全体的に落ち着きがなくなっているが、毎日の朝の10分間学習ではある程度落ち着いた状況でできている。携帯電話に関するルールが守れない生徒が増加傾向にある。

(2学 年) 進路希望未定者の割合は減っているが、まだ漠然とした進路希望で、具体性に欠ける。また、生徒が保護者と進路について話す機会が少ないことも課題である。

(3学 年) 担任会を定期的に週1回設定しており、担任と進路指導部、JST との情報交換や生徒への指導方針の共有が円滑に行われ、進学希望生徒の模擬試験や小論文ガイダンスの申し込み生徒も増加している。しかしながら、専門学校希望から就職へ変わる生徒も多く、保護者と生徒の考えの違いから進路先が未定のまま、動きが鈍くなっている。

【今後の改善方策】

(教 務) アクティブラーニングの授業についての検討会を進め、各自が研究授業を行う。1年間の成果を全教職員が共有することで、すべての教員の授業が改善できるようにする。

(進路指導) 各種ガイダンスにおいてはとても順調に進んでいる。一方で、昨年立ち上げた学力診断テストの分析結果の活用が進んでいない。教科主任会議で議論していく。

(1学 年) 進路目標を明確にし、目標に向かって充実した学校生活を送れるよう、担任面接を定期的に行い、生徒にアドバイスをしていく。

(2学 年) 大学訪問やインターシップ、看護体験への取り組みを指導の契機とし、模試、3学期初頭の就職ガイダンス、進路情報誌活用などについて指導する。また、模試結果などを基に、目標を持って学習活動に取り組むことの大切さを再確認させる。2年生進路ガイダンスは3月に実施を予定している。

(3学 年) 現在、就職希望者23名、国公立推薦希望者5名、指定校推薦希望者約20名の指導を中心に行っている。今後は就職希望者で縁故就職をする生徒についても、保護者との連携を密にして取り組み状況を確認していく。また、一般公募制推薦やAO入試生徒への指導にも取り組んでいく。4年制大学への進学を希望する者には大学入試センター試験の受験を強力に勧め、入学後に困らないだけの教科学力をつけさせる。

2 生徒を鍛え、健やかな心身と未来を切り拓く力を備えた生徒を育てる。				
生徒が規範意識、協調性を高め、責任ある行動がとれる。	「生徒指導部だより」の発行や全校生徒集会・学年集会等の際に、生徒指導規程を認識させる。	B	集会の機会を捉えて、生徒指導規程に沿って指導を重ね、生徒指導便りも毎月発行した。	生徒指導
	遅刻を繰り返す生徒への対応の強化とともに時間厳守を各担任・教科担任で指導を強化していく。	B	遅刻の総数は、昨年度よりも2割減少しているが、指導を受けた生徒は倍増している。	生徒指導
生徒が自律的な態度を身に付け、生活習慣を確立している。	遅刻者の割合を減らすために、朝の10分間学習の時間を確実に確保し、SHRを充実させる。	B	朝の10分間学習は静かに良い雰囲気を実施されている。(1・2学年) 遅刻者が固定化しており、毎朝学年で5名以上の空席がある。(2学年) 朝のSHR不在者が学年で5名以内の日が続いていたが、2学期に入り、7名を超える日が続いている。(3学年)	各学年
	新入生への入部勧誘活動を、より積極的に行うとともに、地域に文化祭・運動会等を通して活動状況を紹介する。	C	昨年度と比べ、入部率は3ポイント下がった。1年生の入部率が、6ポイント下がった。	生徒指導

【評価結果の分析】

(生徒指導) ①機会があるごとに生徒指導規程を認識するようになってきたが、指導票を発行される生徒も多く、ルールが守られている状況とは言えない。

②遅刻の総数は減少しているが、遅刻を繰り返して指導を受ける生徒は倍増している。特定の生徒が遅刻を繰り返しており、「遅刻をしてはならない」という意識が希薄であるように感じる。

③全体の入部率は若干下がっているものの、入部率は3年53%、2年68%、1年72%と上がっている。

(1 学 年) 2学期になり、欠席・遅刻が増加傾向である。

(2 学 年) 朝の10分間学習、SHRは静かな雰囲気落ち着いている。しかし、遅刻指導の必要な生徒が固定化しているのが課題である。

(3 学 年) 一日の始まりを10分間学習で始め、落ち着いて学習できる環境づくりを目指して取り組んできた。最高学年になり、自分の進路を見据えて生活リズムを整える生徒が増加し、遅刻や欠席も減少した。しかしながら、2学期に入り、気の緩みが出ており、遅刻や欠席が増加している。

【今後の改善方策】

(生徒指導) ①全校集会、学年集会や「生徒指導部だより」等を利用し、機会あるごとに生徒に生徒指導規程を根底においた指導をしていく。また、教職員全体に対しても指導内容や方向性を周知徹底していく。

②遅刻を繰り返す生徒に対して、指導を継続する。「遅刻防止強化期間」等を設定して、生徒の意識を喚起する。

③新入生を迎える時期に向けて、入部勧誘の方法について検討する。可能に限り退部者を出さないよう取り組む。

(1 学 年) 遅刻を繰り返す生徒への反省文指導、家庭との連携をしっかりと行い、遅刻者ゼロを目指す。

(2 学 年) 次年度の進路実現に向け、自律的な態度を身につけておくことの大切さを指導する。特に、修学旅行に向けての様々な事前訓練なども活用し、生活習慣の確立や集団行動における自律的な態度を身につけさせる。精勤に向けて努力している生徒を励ましつつ、固定化している生徒には継続して保護者と連携を持つ。

(3 学 年) 推薦入試を受ける生徒には他の生徒の模範となり牽引していけるよう指導する。また、精勤にむけて努力している生徒を励ます。規則正しい生活リズムを確立することが全ての基本であることを繰り返し確認させると同時に、10分間学習に集中して取り組むことが出来ていない生徒がいれば、厳しく指導していく。

3 保護者、地域に信頼される活力ある学校をつくる。

質の高い情報発信による地域との積極的な連携	定期的に「東高便り」を地域に配付し、学校ホームページを更新することを通して地域に新しい情報を発信する。	A	東高便りは4号発行し予定より1号多く発行している。HP更新は8月末で15回更新しており予定通りである。	総務
	ボランティア活動の年間予定を全体に周知し、幅広い層の参加者を公募する。あわせて校外清掃も継続して実施する。	B	校内外美化活動については計画通り、校外ボランティア活動も実施し、100人の生徒が参加した。	総務 生徒指導

【評価結果の分析】

(総務・生徒指導) 「東高便り」は計画より1号多く発行している。HP更新については、計画通りである。校内外美化活動については計画通りである、校外ボランティア活動も実施し、100人の生徒が参加した。

(生徒指導)

【今後の改善方策】

(総務・生徒指導) HP更新については、行事ごとに更新をして、すばやく情報を発信していく。校内外美化活動・校外ボランティア活動については計画通りである。

平成27年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	8	学校名	広島県立三原東高等学校	校長氏名	波多野 徹	◎・定・通	◎・分
----	---	-----	-------------	------	-------	-------	-----

1 評価結果の分析

(1) 確かな授業力と組織的な指導により、生徒の学力向上と進路希望の実現を達成する。

達成目標の「生徒が確かな学力を身に付けている」については、知識を活用して課題を解決するために必要なスキル、学習意欲を向上させるため「学びの変革」アクション・プランの方針に従った授業の論議や授業の実施も進んでいる。学習目標を持たせるために、考査成績度数分布や学習時間調査のグラフ化をしている。昨年度から学力診断テストの分析をして焦点化して各教科で取り組むようになってきているが、分析やその要因の検討ができていない。

達成目標の「生徒が高いキャリア意識を持ち、進路目標を実現している」については、ガイダンスの回数を増やし生徒に合わせたガイダンスを実施することで、ガイダンスへの参加者が増え、進路未決定者が減少するなど効果を上げている。1年生では、学期始めにオリエンテーションを行い授業規律や学校生活の指導を行い、手帳を使って時間管理や予定をメモさせることによって振り返りをさせる指導を実施している。

(2) 生徒を鍛え、健やかな心身と未来を切り拓く力を備えた生徒を育てる。

達成目標の「生徒が規範意識、協調性を高め、責任ある行動がとれる」については、機会を捉えて、生徒指導規程に沿って指導を重ね、生徒指導便りも毎月発行するなど丁寧な指導を繰り返した。その効果もあり、遅刻者数は昨年度より減少している。しかし、特定の生徒が遅刻を繰り返し、指導を受ける生徒が増加した。

達成目標の「生徒が高いキャリア意識を持ち、進路目標を実現している」については、朝の10分間学習は静かな雰囲気で行われている。3年生では進路実現に向けて生活リズムを整える生徒が増加し、遅刻や欠席も減少した。しかし、2学期になりどの学年も遅刻者が増加傾向になってきている。

(3) 保護者、地域に信頼される、活力ある学校をつくる。

達成目標の「質の高い情報発信による地域との積極的な連携」については、東高便りは4号発行し予定より1号多く発行している。中学校(1校)3年生と地元の町内会にも配布をしている。HPは行事ごとに更新して、8月末で15回更新しており予定通りである。校内外美化活動については計画通り行われ、校外ボランティア活動も実施し100名の生徒が参加した。

2 今後の改善方策

(1) 確かな授業力と組織的な指導により、生徒の学力向上と進路希望の実現を達成する。

アクティブラーニングを取り入れた授業の在り方についての検討会を進め、各自が研究授業を行う。1年間の成果を全教職員が共有することで、すべての教員の授業が改善できるようにする。

各種ガイダンスにおいては、どの学年も順調に進んでいるので計画通り実施していく。進路目標に向かって充実した学校生活を送れるように面接を定期的におこなう。一方で、昨年立ち上げた学力診断テストの分析結果の活用が進んでいないので、学年会や教科主任会議で議論を継続する。

(2) 生徒を鍛え、健やかな心身と未来を切り拓く力を備えた生徒を育てる。

全校集会、学年集会や「生徒指導部だより」等を利用し、機会あるごとに生徒に生徒指導規程を根底においた指導をしていく。また、教職員全体に対する指導内容や方向性を周知徹底していく。

遅刻を繰り返す生徒に対する、指導を継続する。10月下旬から「遅刻防止強化期間」等を設定して、生徒の遅刻防止への意識を喚起する。反省文指導や家庭との連携をおこない、生活習慣の確立や集団行動における自律的な態度を身につけることの大切さを指導する。

(3) 保護者、地域に信頼される、活力ある学校をつくる。

HP更新については、行事ごとに更新をして、すばやく情報を発信していく。校内外美化活動・校外ボランティア活動については計画通り実施する。マイロード花植えを11月16日に実施する予定である。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策

学校関係者評価で委員の方々からいただいた評価は、AまたはBで、学校の取組みや結果については概ね肯定的に評価していただいた。また、「東校の強み」は、チャレンジできる環境や「自由さ」が伝統である。地域を担う生徒を育てて欲しいなどの御意見・御指摘を踏まえ、今後の改善方策については、それぞれポイントをしばって具体化して生徒の良いところを伸ばせるよう取り組んでいく。特に進路指導、学習指導については、今年度の大きな目標である「授業で学力をつける」を達成させるために、生徒の状況を十分把握し、教務部・進路指導部・学年会の連携を深めて、生徒・保護者へ早い時期に情報を提供し、生徒の進路意識を高めさせて各自の進路実現が達成できるよう取り組む。

校番	8	学校名	広島県立三原東高等学校	校長氏名	波多野 徹	☑・定・通	☑・分
----	---	-----	-------------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ○目標・指標・計画ともに適正です。 ○シンプルで、実現できる設定が良い。 ○指標をもう少し項目を増やし、具体化すればと思います。 ○部活動する生徒を活性化に生かしてほしいという要望を何年も言ってきており、陸上部の生徒の活躍はすばらしい。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ○計画の進捗状況は、おおむね適切です。 ○評価分析は適切である。 ○実態把握を目標に活かされているか分析が進んでいる。
目標達成に向けた取組みの適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ○目標達成へ向けての努力は評価できます。 ○適切である。 ○東校生徒が社会的信頼・信任を得られるよう規律を中心に取組みを続けてほしい。
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの課題とその評価は適切です。 ○具体的に評価されている。 ○数値目標が全体的な捉えとは思えない。個別の支援計画とか、改善目標を持たせてはどうか。
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ○改善方策も適切です。 ○改善策も指標を増やしていけば、より精度がよくなるのではないか。 ○研究授業の成果が全教職員のものとなっていないのでは、「本時の目標」や「本時の評価」を毎時間導入することで活性化を。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ○達成目標を進めるために、的確な具体的な指標を考えられるとより良い結果になると思います。 ○信頼された学校が、一部の遅刻する生徒のために評価を落としている。